

福祉灯油の実施、医師確保対策充実を

市議として15回目の一般質問

先月30日、市議になってから15回目の一般質問に立ちました。テーマは原油高騰対策、医師確保対策、そして並行在来線対策の3つ。市長に見解を求めました。今回の質問では吉川区からも傍聴にきていただきました。ありがとうございました。今号と次号の2回にわけて質問の概要をお知らせします。

【橋爪】原油高騰問題は、まさに市民のくらしと地域経済を直撃し、日本経済全体の先行きにとって重大な問題となっている。原油価格の高騰による物価の上昇の影響を最も受け、生活が困窮している低所得者を対象に、冬季の暖房費助成、生活資金貸し付けなどの考えはないか。

【木浦市長】国では8月29日に緊急総合対策をまとめ、原油・食料価格等の急激な上昇に伴う国民の生活への不安を解消し、生活者を応援する観点から、物価に対する総合的対策を強力に進めることとしている。暖房費助成については、引き続き、引き続



き、こうした国の対策や灯油価格の動向を見極めてまいりたい。ご存じのとおり、市では低所得者の方々にたいする生活資金の貸

し付けは行っていないが、新潟県社会福祉協議会が低所得世帯や障害者世帯、高齢者世帯を対象とした各種資金の貸し付けを行っているので、様々な要因で資金が必要な方がご利用いただけるよう、改めて広く周知を図ってまいりたい。

【橋爪】医師不足が主要な原因となり、救急医療をはじめとする地域医療はまさに崩壊現象が起きていると言っても過言ではない。新潟大学医学部の定員増の確実な実施、島根大学で取り組まれている「地域枠推薦入学制度」の実施について関係機関に働きかけをするべきではないか。また、市の奨学金貸付制度については、大学卒業後、市内に戻って医師の仕事をする場合は、返還を免除するなど思い切った改革をすべきと考えるがどうか。上越に県立医科大学の設置するよう働きかけをしてほしい。

【木浦市長】平成18年の厚生労働省調査によると、県内の人口10万人当たりの医師数は全国平均217.5人の約85%に当たる185.2人で、全国39位だ。新潟大学では、医師不足を解消していくため、平成20年度の入学選考から、卒業後県内の医療機関で活動することに強い意志がある地元学生を対象とする5人の「地域枠」が創設された。また、来年度の入学選考からは、さらに5人の枠が新たに設けられ、「地域枠」が10人に拡大される。これにより、国から求められている過去最大規模の定員である120人に近づく。当市では、奨学金貸付制度があるが、中長期的な観点から医師確保に取り組む必要があることから、新潟県が

市町村と共同で行っている医師養成修学資金貸与事業に、平成19年度から拠出し参画している。県立医科大学の設置は理想の姿と考えるが、新潟大学において過去最大の定員に達するまでの地域枠の更なる拡大を検討されているものと考えているので、まずはその効果を見守りたい。

杜氏の郷存続には3条件必要

1日に開催された市議会文教経済常任委員会で市当局は、(株)杜氏の郷を存続させ、事業を継続させていくためには3つの条件が必要であることを明らかにしました。

ひとつは事業にかかわってきた市、JA、役員などの役割とそれに応じた責任の明確化です。2つ目は、実現可能な経営改善計画。そして3つ目は、経営計画を着実に実行できる経営の新体制をつくることです。

これらの3条件は当然のことです。問題は市、JA、会社の三者協議のなかで、どんな具体的な内容で決まってくるかです。議会や市民が納得できるものを提示してほしいものです。

市当局によると、現在、会社が提出した経営改善計画について中小企業診断士の診断結果を待っている段階とのこと。次回の文教経済常任委員会の調査は月末の予定です。今回は委員会審査の最大の山場となるかも知れません。



【シラネセンキュウ】小さな花が集まって大きなかたまりをつくる。その女性的な繊細さにほれほれしてしまいます。セリ科。下川谷で撮影。

春よ来い 第九九回 落ち穂拾い

ご飯はひとつぶでも残すな。バチがあたるぞ。私が子どもの頃、父や祖父・音治郎に言われた言葉です。いつも空腹を感じていた時代でしたので茶わんに盛られたご飯を残すことはめったになかったはずなのですが、なぜか繰り返し聞きかされた記憶が残っています。

当時、わが家は吉川町（現在、上越市吉川区）のシンボル、尾神岳のふもとにありました。そこで、八反（八〇アール）ほどの田んぼを耕作していました。この田んぼでとれた米を売って得る収入がどれほどだったかは詳しくわかりませんが、わが家の家計を支える極めて大切な収入源であったことは確かです。

売れるコメはできるだけ多くして、自家用分は少なめにする。よその農家もそうだったと思いますが、わが家ではその考えが食生活など生活全般にわたり貫かれていました。自家消費用のコメはある程度余裕を持って確保するものの、加減して使っていたように思います。米俵に入れて売ることのできない小さなコメなどは粉にして、団子をつくる原料にしました。囲炉裏で焼いてもらった「焼きもち」も、こうしたコメで作られたものです。コメに麦などを混ぜて炊いていたこともあり、こちらは健康のために良いという文句でしたが。

いうまでもなく、田んぼでは一キロでも多くコメを収穫しようとしてきました。春先に、寝かせた堆肥を入れる。田の草取りをする。水管理をしつかりとやる。ここで得る収入が家計で大きな割合を占めていただけに、一つひとつの作業をていねいにやりました。稲作にたいする力の入れ具合は以上だったと思います。

そうしたなかで忘れられないのは落ち穂拾いです。稲刈り鎌やバインダーで稲刈りをしていた当時、田んぼに落ちている稲穂をひとつ残さず拾い集めようとしてきました。収穫量を少しでも増やすためです。その作業をしたのは主に子どもたちでした。

落ち穂拾いはたいがい、田んぼの中にある刈った稲を運び出してから。私は右利きです。落ち穂を拾うのは右手。右手で拾っては左手にためる。それがいっぱいになると、袋に入れるか畦元（あぜもと）まで出しました。刈り取りが適期であった時はさほど多くはありませんでしたが、天候の具合などで刈り取りが遅れた時や倒伏して穂先が地面にべったりと張り付くような時には大仕事になりました。稲穂があちこちに落ちていて、簡単には終わらなかつたのです。

子どもの頃の稲刈りはいまよりも遅く始まり、ややもすれば、終わるのが十一月の十日過ぎにずれ込むことがありました。日が沈むのはどんどん速くなり、田んぼの周りにはあつという間に暗くなります。落ち穂拾いをしていくうちに暗くなってしまったこともありました。暗くなって、一時も早く家に帰りたいと思つたのはいうまでもありません。子どもですから。こういう時、待っていたのは「帰るぞ」という父の言葉でした。家に帰ってもすぐに休めるかどうかはわからないのに、この言葉を聞くともすごくうれしかったものです。

先日の夕方、父が病院のベッドの上で突然、言いました。「とちや、家に帰っていっばいやるさ」。認知症がかなり進んでいて、いつも何をしゃべっているのかわからないことが多いのに、このときばかりは言葉がハッキリしていました。病室の窓からは夕焼けが見えました。真っ暗になるまで田んぼで働いてきた父の脳裏に浮かんだのは、ひよっとすると稲刈り仕事をしまいにすることだったのかも知れません。

社長が経営責任など5項目に言及 (株)杜氏の郷株主総会

(株)杜氏の郷の株主総会について市当局は1日、市議会文教経済常任委員会に報告しました。報告の中で、八木社長が総会で行った挨拶と議事説明の内容が明らかにされました。それによると、会社が今回の返済不履行に至った経過等の説明と以下の5項目についての言及があったということです。

1番目は、経営責任についての謝罪です。当初計画の甘さ、資金計画の狂い、役員認識不足等から生じた製造量と売上の伸び悩み等で建設資金の返済に充当する財源が枯渇してしまったことを詳細に報告し、今日の事態を招いた自らの責任について謝罪したということでした。

2番目は、会社が負った債務の圧縮のための役員責任の取り方についてです。具体的な金額までは触れなかったものの、これまでに受け取った役員報酬全額の返納を含め、市、JA、会社の三者協議の中で合意される諸事項に従っていくことを表明したといます。役員自らが、具体的な責任を取る意思を持っていることを明らかにしたのは初めてのことです。

3番目は、経営改善計画についてです。当日株主に示した経営改善計画は、会社の役員会で作成したものであり、市・JA・杜氏の郷の三者での合意事項では

なく、現在、コンサルタントにその評価を依頼中であり、その結果と三者協議を経て、後日再提案することでした。

4番目は、売上増に向けた姿勢として、今後株主をはじめ、地元へ積極的に協力依頼を行っていききたいということです。

5番目は、今後の会社経営についてです。筆頭株主である農協から施設運営を含めてお願いしたいと役員全員が願望している。ただし、新体制になるまでは、現役員が責任を持って経営を継続していくという表明があったということです。

山方田尻間の市道沿いに防犯灯増設

山方田尻間の市道に沿って、このほど防犯灯が増設されました。

この道路は通学道路としてもよく使われていることから、「橋爪法一を囲む会」などで要望が出されてきました。これで一安心です。

写真は9月27日撮影

